

放射線防護に関する国際動向と日本の専門家としての向き合い方

日本保健物理学会 国際対応委員会委員長 佐々木道也

- ▶ 国際対応委員会：保健物理に関する学術および技術の発展に資するため、関連ある国際機関や諸外国の学術団体との連絡・協力などの活動を行っています。
 - (1) 国際放射線防護委員会（ICRP）等の国際機関から公開される文書等に対する見解をまとめるに当たり、その検討の中心的役割を担う。
 - (2) 国際放射線防護学会（IRPA）、アジア・オセアニア放射線防護協議会（AOARP）、米国保健物理学会（HPS）、英国放射線防護学会（SRP）および諸外国の学術団体との双方向的な関係を維持・発展させる。特にIRPAについては、当学会のIRPA理事と密に連携し、その対応にあたる。
 - (3) 国際原子力機関（IAEA）、経済協力開発機構／原子力機関（OECD/NEA）等の情報を必要に応じて収集・分析する。
 - (4) 本委員会の活動等を、「会誌」、「NEWSLETTER」、「ホームページ」等により公表する。
- ▶ 国際対応委員会企画セッション→ICRP次期主勧告 トピック別の対応、他国内外学会との連携。
- ▶ 実務者としての声を届ける→IRPA そのための基礎の充実も重要。